

高等学校 芸術(書道) 解答用紙

(4枚のうち1)

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)






受験番号

3
得点

(1)	① 仮	／
	② 処	／
	③ 団	／
	④ 楼	／
	⑤ 炉	／

(2)	① 計	／
	② 己	／
	③ 曾	／
	④ 川	／
	⑤ 良	／

(3)	① 通	／
	② 鶴	／
	③ 紛	／
	④ 然	／
	⑤ 每	／

(4)	① 	／
	② 	／
	③ 	／
	④ 	／
	⑤ 	／

(5)		
イ	ア	
⑦ 趙孟頫	⑤ 蘇軾(蘇東坡)	① 蘇
／	／	／
⑧ 鍾繇	⑥ 祝允明	② 客
／	／	／
		③ 舟
		／
		④ 下
		／

高等学校 芸術(書道) 解答用紙

(4枚のうち2)

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

受験番号

3

(続き)

ア(6)	
作品名	あり(利)はらのもとか(可)た(多)と(東)しのうちに(尔)はるは(盤)き(支)に(尔)け(介)り(利)ひと、せ(勢)をこそ(曾)とやいは(者)むことしとやいは(者)む(無)
図版	
書風の特徴	

イ(6)			
作品名	高野切 第一種	高野切 第二種	高野切 第三種
図版	A	C	B
書風の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ直筆で緊張感がある線質。 ・自然で無理のない、流れるような連綿。 ・墨継ぎが巧妙で、その潤渇が美しい明暗をつくり、紙面に立体感を作る。 ・優雅典麗。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運筆は緩やかで、側筆を多用した線質。 ・斜めの線を強調した連綿。 ・文字の大きさに大小が少なく、均一的で、一字の大きさは小さい。 ・沈着で力強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直筆で早い運筆により、線質がシャープでのびやか。 ・冗長な線を省き空間を大きく取っているため、張りのある文字構え。 ・端正な字形で、緊張感を伴った造形美。 ・単純明快。

高等学校 芸術(書道) 解答用紙

(4枚のうち3)

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

受験番号

3

(続き)

得点

--

(7)				
⑤	④	③	②	①
<p>古来書齋の中で使用される用具を文房具と言うが、その中でも、最も貴重な筆、墨、硯、紙を合わせて文房四宝と呼んで重宝した。</p>	<p>中国河南省洛陽にある古陽洞に刻されている、龍門二十品とよばれる造像記の一つで北魏時代の書である。陰刻が多い造像記には珍しい陽刻である。剛健な用筆、運筆で、角ばった字形を取っている。</p>	<p>米芾、蘇軾、蔡襄とならび、宋の四大家の一人である。号は山谷。蘇軾の「黄州寒食詩卷」に書いた跋文「黄州寒食詩卷跋」が有名である。迫力のある行書体で書かれた「伏波神詞詩卷」や自由な筆致の草書作品の「李太白憶旧遊詩卷」などがある。</p>	<p>書画における落款と同じで、刻者名や刻した日、場所などを、印の左側面に彫る。側款も鑑賞対象になっていて、側款の鑑賞法として、側拓を取る方法がある。</p>	<p>甲とは亀甲、骨とは獣骨のことで、現存する最古の漢字である。祭祀、戦争や狩猟、農作物の豊凶などに関する占いに用いた。鋭い刃物で刻したもので、直線的な線で刻まれている。</p>

--

--

--

--

--

高等学校 芸術(書道) 解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号

(解答は指示がある場合以外、解答用紙に楷書で記入すること)

4

得点

(1)
 ・半切を縦半分のみ折らせて、半切に対しての適切な文字の大きさや配置を工夫させる。
 ・紙の上下を少し折らせて、上下の余白について留意させる。

(2)
 ・一字の字形の取り方から、文字群としての字形や文字の大きさ、連綿、行間の余白や字形の取り方に発展させ、一行めと二行めが呼応するように、全体の構成を工夫させる。
 ・祭姪文稿の用筆・運筆の特徴を踏まえ、重厚な線質の中にも鋭い線もあるなど、抑揚やリズムがもたらす線質の変化を考え、筆脈を通すように工夫させる。
 ・筆脈を通すため、また墨量の変化をつけるために、墨継ぎのタイミングを考えるよう指導する。
 ・落款は二行めの下に入れ、押印の場所も留意させる。／

(3)
 ・一時限に使用したワークシートを根拠に、自身での振り返りをさせ、それを生かして次を書くよう指導する。
 ・グループワークの中で、重厚な線質や字形から生まれる祭姪文稿のよさや美しさ、字形や文字の大きさ、字間や余白について全体構成が適切であるかを根拠をもって批評し合うといった言語活動をおして理解させる。
 ・作品を壁に貼り、生徒どうしで批評し、よくできている部分に付箋を貼るなど可視化することによって、制作の具体的な目標となることを理解させる。
 ・グループで一緒に書いたり、書いている様子を観察させたりするなど、鑑賞で得たものを表現できるよう、協力させる。／